

科目名		舞台演技実習Ⅰ				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修		単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台演技基礎の習得 2. 基礎的な演技メソッドの理解 3. 台詞表現と体表現への取り組み					
学習目標 (到達目標)	台本を読み、場における動きや伝えたいことの意味、登場人物の役割を理解できること					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考				
1	舞台演劇基礎 1 立ち姿勢	トレーニングの重要性と素立ち 発声の仕方				
2	舞台演劇基礎 2 反応と表現	目線や仕草に対して無意識下での反応について 呼吸法に対する意識				
3	舞台演劇基礎 3 台詞について	言葉の意味、伝えたい事を意識してみる 気持ちの持ち方・考え方				
4	舞台演劇基礎 4 芝居の空間	場面、設定の理解と人物の行動理解				
5	舞台演劇基礎 5 相手役を考える	自分に向けて話す相手の台詞から自分の役柄を見つける。				
6	舞台演劇基礎 6 会話劇	二人以上のシーンを演じてみる。 お互いの表現について考える。				
7	舞台演劇基礎 7 客席との距離	見せ方の工夫。声量について 距離感や想像力について				
8	舞台演劇基礎 8 ミザンス	立ち位置の取り方について シーンでの見せ方				
9	演技発表 1	一人5分程度の演技発表会				
10	演技実習 1 姿勢や発声が必要な体について	基本的なトレーニングのおさらい				
11	演技実習 2 反射と影響	台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。				
12	演技実習 3 伝え方の工夫	声や身体両方をしっかりと使ってみる。 擬音…声、台詞…体表現と日常の音を逆転させてみる。				
13	演技実習 4 台詞のキャッチボール	二人一組で、古今東西ゲームをテニス形式（エア）で行ってみる。				
14	演技実習 5 台本を理解し、物語のテーマを考える	演じる世界を理解し、登場人物だからこそ見える世界を感じとり、表現してみる。				
15	演技実習 6 集団表現	舞台でのアンサンブルを意識し、適切な立ち位置と複数人による台詞のタイミングを考えてみる。				
16	演技実習 7 自然な演技	オーバーラップや無反応、集団と個人など、打ち合わせの無い状態での集団表現				
17	演技発表 2	グループ（3～5人）での発表会				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%		様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年					

科目名	演劇トレーニングⅠ				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	身体トレーニング1	イントロダクション・トレーニングの重要性			
2	身体トレーニング2	ストレッチ・リズム運動			
3	身体トレーニング3	ストレッチ・リズム運動・呼吸法			
4	身体トレーニング4	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング			
5	身体トレーニング5	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
6	身体トレーニング6	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
7	身体トレーニング7	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
8	身体トレーニング8	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
9	身体トレーニング9	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
10	演技トレーニング1	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
11	演技トレーニング2	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
12	演技トレーニング3	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
13	演技トレーニング4	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
14	演技トレーニング5	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
15	演技トレーニング6	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
16	演技トレーニング7	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
17	テスト	テスト(身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能力)			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成するつもりで臨んでほしい。日常のコンディションキープと常時最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意思を自覚すること。			
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	滑舌 I				
担当教員	岡田 花菜子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	日本語アクセント辞典 滑舌・アクセントについて説明		日本語発音アクセント辞典の使い方確認		
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ		実習		
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化		実習		
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化		実習		
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音		実習		
6	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音		実習		
7	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売		実習。外郎売のアクセント、読み方確認。		
8	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売		実習。外郎売練習。復習必須。		
9	テスト		実技テスト		
10	発声 外郎売		実習。外郎売チェック。		
11	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
12	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
13	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
14	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
15	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
16	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
17	テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ヴォーカルトレーニングⅠ				
担当教員	鎌倉 亜子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本の発声法 2. リズム感、音程の安定 3. 洋楽の発音、発声法				
学習目標 (到達目標)	歌う筋肉の強化、音を聞く耳の強化、コーラス				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎発声（腹式呼吸等）		基本の発声を身に付ける		
2	Mixボイス方法		Mixvo.の響きの確認		
3	鼻腔の共鳴		ハミングで鼻腔の響きの確認		
4	喉の柔軟性		声門の開閉運動		
5	高域の拡大		様々フレーズで発音		
6	ボイスチェンジ法		胸声区から中声区、頭声区へ変化		
7	リズムトレーニング		ハンドクラップで表現		
8	音程トレーニング		様々インターバル使用し発声		
9	洋楽の発声法		正しい英語発音を身に付ける		
10	コーラスの強化		ハモリの耳をきたえる		
11	課題曲歌唱 Ⅰ		合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
12	課題曲歌唱 Ⅰ		合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
13	課題曲歌唱 Ⅱ		合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
14	課題曲歌唱 Ⅱ		合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
15	課題曲歌唱 Ⅲ		合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
16	課題曲歌唱 Ⅲ		合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
17	試験		課題歌唱曲に対する評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	朗読Ⅰ				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 「語る」ための基礎力育成。 2. 「表現する」ためのイメージ力育成。 3. 発表により、伝える力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 人(心)に伝わる音量で語ることができる。 2. キャラクターの心情に応じたセリフを表現することができる。 3. 物語やキャラクターの状況や心情に応じた語り表現ができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師テキスト				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	童話 1		初見読みチェック。漢字・内容確認。児童に伝わる語りについて学ぶ。		
2	童話 2		キャラクターの心情について確認。喜怒哀楽を活かした表現を学ぶ。		
3	童話 3		距離感、間の取り方などの表現を学ぶ。		
4	童話 4		グループ発表。振り返りチェック。		
5	民話 1		初見読みチェック。漢字・内容確認。		
6	民話 2		強弱緩急高低を活かした表現を学ぶ。		
7	民話 3		切迫した状況などの表現を学ぶ。		
8	民話 4		グループ発表。振り返りチェック。		
9	日本文学 1		作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
10	日本文学 2		作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。		
11	日本文学 3		作家芥川龍之介の短編小説の朗読練習。		
12	日本文学 4		作家芥川龍之介の短編小説の朗読。 グループ発表の撮影。語り癖の確認と修正。		
13	日本文学 5		作家芥川龍之介の短編小説の朗読。 グループ発表。		
14	ボイスドラマ 1		初見読みチェック。キャラクターの状況・心情を活かしたつセリフを表現する力を強化。		
15	ボイスドラマ 2		立ち稽古によりキャラクターの音声表現確認。		
16	ボイスドラマ 3		動きのある読みを習得。		
17	ボイスドラマ 4		グループ発表。振り返りチェック。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、語る力、表現力を磨く。 聴く人に、声で物語の世界を見せられるようにするには、自身もイメージを高めて表現しなければならない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	HIP HOP I				
担当教員	MIE (中野 美恵)		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 正しい姿勢、舞台上で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。				
学習目標 (到達目標)	1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ		基本的なストレッチ。体のパーツを動かし確認。		
2	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へ行う。		
3	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		アイソレーション。リズムをとりながらステップ。		
4	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		ステップ、ボディコントロールできるための練習。		
5	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		ビッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。		
6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
8	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
9	テスト		グループ発表。		
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		前期の復習		
11	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)の課題。新しい振り付け。		
12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。		
13	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
14	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
16	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
17	テスト		総まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			進行状況に合わせて振りも変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴	HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。				

科目名	声乐Ⅰ				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テキストを元に声乐の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声乐の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声乐のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声乐のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
17	テスト		ミュージカル楽曲Aテスト。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声乐指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	コミュニケーション検定				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 (到達目標)	社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションとは？		P2 コミュニケーションの必要性を考える		
2	聞く力		P6～P9 目的に即して聞く		
3	聞く力		P10～P14 傾聴・質問する		
4	話す力		P15～P17 目的を意識する		
5	話す力		P18～P22 話を組み立てる		
6	話す力		P23～P29 言葉を選び抜く		
7	話す力		P30～P35 表現・伝達する		
8	実践基礎 1		P36～P39 来客対応		
9	実践基礎 2		P40～P43 電話対応		
10	実践基礎 3		P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶		
11	実践基礎 4		P49～P54 情報共有の重要性		
12	実践基礎 5		P55～P59 チーム・コミュニケーション		
13	実践応用 1		P60～P65 接客・営業		
14	実践応用 2		P66～P71 クレーム対応		
15	実践応用 3		P72～P77 会議・取材・ヒヤリング		
16	実践応用 4		P78～P83 面接		
17	問題演習		P84～P89 模擬問題		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話も交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。		
実務経験教員の経歴	コミュニケーション検定授業歴15年の教員				

科目名	殺陣・アクション				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. アクションの基本を習得 2. 殺陣（剣を使った立ち回り）の基本を習得 3. 舞台・映像演技の中でパフォーマンスができる				
学習目標 (到達目標)	劇中のアクション・殺陣のシーンの中で必要な体さばきと剣さばきを身につける。鍛錬の中で必要な礼儀・所作・精神力を養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	マット・木刀				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	マット運動1		ウォーミングアップ・前転・後転・側転・飛び込み前転・リセット		
2	マット運動2		ウォーミングアップ・前転・後転・飛び込み前転・前回り受け身・横回り受け身・リセット		
3	マット運動3		ウォーミングアップ・芝居の中でアクションを合わせる・リセット		
4	技斗基礎1		ウォーミングアップ・殴り、蹴りの型・リセット		
5	技斗基礎2		ウォーミングアップ・殴り、蹴りのバージョン・リセット		
6	殺陣基礎1		ウォーミングアップ・摺り足・抜刀・納刀・基本十手・リセット		
7	殺陣基礎2		ウォーミングアップ・基本十手・間合い・初級手つけ・リセット		
8	シーンワーク（総合アクション）		ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
9	テスト		テスト		
10	技斗応用1		ウォーミングアップ・殴り、蹴りの型・リセット		
11	技斗応用2		ウォーミングアップ・殴り、蹴りのバージョン・リセット		
12	殺陣応用1		ウォーミングアップ・基本十手・中級手つけ・リセット		
13	殺陣応用2		ウォーミングアップ・基本十手・中級手つけ・リセット		
14	シーンワーク（総合アクション）1		ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
15	シーンワーク（総合アクション）2		ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
16	シーンワーク（総合アクション）3		ウォーミングアップ・殺陣と技斗をミックスした手つけ・リセット		
17	テスト		テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 殺陣アクションは演技とはいえ、十分な注意と心構えが重要。立ち居振る舞い・所作・気配り・礼儀作法・集中力・思いやりといった「心の鍛錬」を怠らないことに留意すること。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映像演出（基礎）演習				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ		舞台制作準備		
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
17	講評会		作品発表会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイ デアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実 現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映像演出（基礎）演習				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画・演出Ⅰ		班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
2	企画・演出Ⅱ		撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
3	企画・演出Ⅲ		撮影スケジュール案を提出		
4	企画・演出Ⅳ		予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
5	企画・演出Ⅴ		撮影準備開始		
6	企画・演出Ⅵ		撮影完了		
7	映像演出（基礎）演習Ⅰ		企画内容選定（舞台制作）		
8	映像演出（基礎）演習Ⅱ		企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
9	映像演出（基礎）演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
10	映像演出（基礎）演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
11	映像演出（基礎）演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
12	映像演出（基礎）演習Ⅵ		企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
13	映像演出（基礎）演習Ⅶ		照明、美術、音響打ち合わせ		
14	映像演出（基礎）演習Ⅷ		舞台制作準備		
15	映像演出（基礎）演習Ⅸ		舞台制作準備		
16	映像演出（基礎）演習Ⅹ		舞台制作準備		
17	講評会		作品発表会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイ デアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実 現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名	Word検定				
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. パソコン操作の基本を学ぶ。 2. 編集機能、罫線機能、図形機能を中心にWordの基本操作を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験3級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウィネット Word2010クイックマスター(基本編) サータィファイ Word文書処理技能認定試験3級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Wordの基本		Wordの起動・画面構成、ヘルプの使い方既存の文書を開く、画面の操作・表示モード、Wordの終了 P2~22		
2	文字の入力と編集の基本操作		新規文書の作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、単語の登録、文書の保存、文字の選択、文字列の編集とコピー・移動 P24~52		
3	文書の編集		ページ・文字の書式設定、文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、字下げと行間の設定、禁則処理、罫線と網かけ P54~84		
4	文書の印刷		改ページの挿入、ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認、印刷の実行 P86~98		
5	文書の作成		入力フォーマット、段落番号の書式設定、箇条書きの設定、タブ、インデント、クリックアンドタイプ、ビジネス文書の作成例 P102~132		
6	表を使った文書の作成		表の作成、表の選択方法、表の編集、表の装飾、文字列から表を作成する P137~165		
7	図形や画像を使った文書の作成		図形の作成、図形の編集、画像の挿入、横書きテキストボックスの挿入、ワードアートの挿入 P171~208		
8	総合学習問題		総合学習問題 P210~215		
9	試験対策		練習問題1~2 問題集P2~16		
10	試験対策		練習問題3~4 問題集P17~29		
11	試験対策		練習問題5~6 問題集P30~44		
12	試験対策		練習問題7~8 問題集P45~59		
13	試験対策		模擬問題1 問題集P76~83		
14	試験対策		模擬問題2 問題集P84~91		
15	試験対策		模擬問題3 問題集P92~99		
16	試験対策		模擬問題4 問題集P100~106		
17	試験対策		模擬問題5 問題集P107~113		
18	試験対策		模擬問題6 問題集P114~121		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴					

科目名	Excel検定				
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. これまで学んだパソコン操作の復習をしながら授業を進めていく。 2. ワークシートの作成、グラフ、データベース機能を中心に基礎的なExcel活用技術を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウィネット Excel2010クイックマスター(基本編) サータィファイ Excel表計算処理技能認定試験3級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Excelの基本		Excelの起動・画面構成、ヘルプの使い方、既存ブックを開く、画面の操作、セルの選択、Excelの終了 P2~22		
2	データの編集		新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存 P24~56		
3	表の編集		罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 P60~82		
4	ブックの印刷		表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の設定 P84~100		
5	グラフと図形の作成		グラフの作成、図形の作成 P104~132		
6	ブックの利用と管理		ワークシートの管理、ウィンドウの操作 P136~147		
7	関数		統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数 P152~182		
8	データベース機能		リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入 P184~202		
9	総合学習問題		総合学習問題 P204~207		
10	試験対策		練習問題1~2 問題集P2~11		
11	試験対策		練習問題3~4 問題集P12~21		
12	試験対策		練習問題5~6 問題集P22~32		
13	試験対策		練習問題7~8 問題集P33~41		
14	試験対策		模擬問題1 問題集P54~58		
15	試験対策		模擬問題2 問題集P59~62		
16	試験対策		模擬問題3 問題集P63~67		
17	試験対策		模擬問題4 問題集P68~72		
18	試験対策		模擬問題5 問題集P73~77		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴					

科目名		映像舞台制作実習			
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	114時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19日×6コマ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)		
2	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
3	企画書作成		内容		
4	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
5	台本作成		資料収集		
6	台本作成		基本的構成決定～ラフ台本完成		
7	台本作成		台本完成		
8	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
9	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
10	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
11	稽古期間		音響・照明プランニング		
12	稽古期間		音響・照明プランニング		
13	稽古期間		音響・照明プランニング		
14	稽古期間		音響・照明プランニング		
15	稽古期間		最終チェック		
16	リハーサル		会場入り(通し)		
17	リハーサル		会場入り(通し)		
18	ゲネラルブローベ				
19	本番				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映像舞台制作実習				
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	84時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 14日×6コマ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		テーマ・スケジュール・内容などの決定		
2	台本作成		構成およびラフ台本完成		
3	台本作成		台本完成		
4	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
5	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
6	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
7	稽古期間		音響・照明プランニング		
8	稽古期間		音響・照明プランニング		
9	稽古期間		音響・照明プランニング		
10	稽古期間		最終チェック		
11	リハーサル		会場入り（通し）		
12	リハーサル		会場入り（通し）		
13	ゲネラルプローベ				
14	本番				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名	社会人常識マナー検定				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集3級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客対応。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特徴など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
17	検定対策③		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴	専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

科目名		舞台演技実習 II			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2. 演技メソッドの理解と実践 3. リアリズム演劇を理解する				
学習目標 (到達目標)	現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	俳優演技の基礎1 体の使い方		トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
2	俳優演技の基礎2 表情を鍛える		日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
3	俳優演技の基礎3 呼吸法に対する意識		気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
4	俳優演技の基礎4 シチュエーション		場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
5	俳優演技の基礎5 感情表現について		感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
6	俳優演技の基礎6 喜怒哀楽と老若男女		感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
7	俳優演技の基礎7 アンサンブル稽古		集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
8	俳優演技の基礎8 コロス		集団演技について		
9	演技発表1		コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
10	演技実習1 姿勢や発声で必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
11	演技実習2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
12	演技実習3 インプロ1		反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
13	演技実習4 インプロ2		シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
14	演技実習5 エチュード1		場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
15	演技実習6 エチュード2		前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
16	演技実習7 エチュード3		エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
17	演技発表2		グループ(6~10人)での発表会(エチュード)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	演劇トレーニングⅡ				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 役者の仕事を理解し、演技することができる 2. 戯曲を読解し、演技につなぐことができる 3. 役へのアプローチを多角的にできる				
学習目標 (到達目標)	役者とは、演技とは何かを常に追求する頭を獲得し、戯曲やシナリオを役者の観点から読解することができるようになる。多角的な役へのアプローチを実践し、現場で必要とされる演技力を獲得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	その場に応じて教材・テキストを用意。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	役者とは・演技とは	役者とは何か、演技とは何かを考察する。演技者の為のイントロダクション			
2	セリフと間	セリフと間を実際に演じてみるエクササイズ			
3	演技で空気をつくる	演技で空気をつくるエクササイズ			
4	戯曲の読み方	役者としての戯曲の読み方・分析			
5	セリフ演技について	セリフ演技についての説明・実践			
6	戯曲への演技アプローチ1	戯曲の解釈から演技に繋げる実習			
7	戯曲への演技アプローチ2	戯曲の解釈から演技に繋げる実習			
8	戯曲への演技アプローチ3	戯曲の解釈から演技に繋げる実習			
9	テスト発表				
10	ドラマのための即興演技1	1人での即興トレーニング			
11	ドラマのための即興演技2	2人組での即興トレーニング			
12	ドラマのための即興演技3	グループでの即興トレーニング			
13	ドラマのための即興演技4	戯曲を使った即興トレーニング			
14	ドラマのための即興演技5	戯曲を使った即興トレーニング			
15	ドラマのための即興演技6	戯曲を使った即興トレーニング			
16	ドラマのための即興演技7	戯曲を使った即興トレーニング			
17	テスト発表				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 役者としての自分と真摯に向き合う姿勢と、演劇に対する好奇心、演技力向上に対するモチベーションを保つこと。			
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ヴォーカルトレーニングⅡ				
担当教員	鎌倉 亜子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 基本発声の定着 2. 音域の拡大 3. リズム感、音程、ハモリの耳の強化				
学習目標 (到達目標)	抜力した上で声量上げる、洋楽ゴスペル曲（4声）の完成				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎発声		リップ、タンゴロールで抜力させる		
2	Mixvo.の定着		やわらかい響き作り		
3	口・鼻・喉の共鳴		それぞれの違いの確認		
4	Middlevo.の強化		閉鎖筋の強化		
5	リズムトレーニング&音程		音程発声にリズムを追加		
6	ゴスペル4声パート練習		パートごとの安定		
7	ゴスペル4声5曲完成		発表の場を設け、達成感を味わう		
8	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
9	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
10	課題曲歌唱Ⅰ		ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
11	課題曲歌唱Ⅰ		ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
12	課題曲歌唱Ⅱ		ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
13	課題曲歌唱Ⅱ		ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
14	課題曲歌唱Ⅲ		ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
15	課題曲歌唱Ⅲ		ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
16	試験用課題曲レッスン		歌唱チェック		
17	試験		課題歌唱曲に対する評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年				

科目名	声乐II				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テキストを元に声乐の基礎から応用を身につける。 2. 正しい音程、合唱でも他に惑わされない音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるように、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声乐の基礎から応用を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。		
2	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
9	テスト		ミュージカル楽曲Bテスト。		
10	身体レッスンとチェック コンコーネ		歌唱と目について確認。コンコーネNo.8 No9		
11	体勢チェック コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.10 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo20 No21、コンコーネNo.10 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo21b/e、コンコーネNo.11 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。		
16	発声 ミュージカル楽曲		ミュージカル楽曲C練習。		
17	テスト		ミュージカル楽曲Cテスト。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声乐指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	滑舌 II				
担当教員	関根 美紀		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声 滑舌練習		1年次の振り返り。復習練習。		
2	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		1年次の振り返り。尾高から平板読み練習。		
3	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		高感度の良い読み方、フラットな読み方の練習。		
4	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		前回までの復習と再修正。		
5	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域		基礎練習。音域を広げる練習。		
6	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域		基礎練習。音域を広げる練習。		
7	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習		同じ文章で抑揚を変えて練習。ストレートに読む練習。		
8	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習		テスト課題練習。		
9	テスト		実技テスト		
10	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を正しく読む練習。		
11	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を正しく早く読む練習。		
12	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を表現を加えて読む練習。		
13	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。敬語多めの文章。		
14	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。無声化確認。		
15	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。ブレス調節。		
16	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。テスト課題練習。		
17	テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

科目名		演技理論			
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科 俳優・タレントコース		○	
対象学年		2		開講時期	
必修・選択		必修		前期・後期	
単位数		1		単位時間数	
17時間					
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 演劇等実技の中で、気を付けて学ぶべきポイントを考えてみる 2. 芸能分野を生理的に考え、人間の反応について学ぶ 3. 集団や複数の人格による会話を多面的に捉える			
学習目標 (到達目標)		一つのセリフを状況や時間、性格や生活環境・価値観、年寄・子供など多面的に表現できること			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		資料は、必要に応じてコピーにて配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	芸用生理学	情景に立つ1		芝居の世界を想像し、自分をその世界に立たせてみる意識	
2	芸用生理学	情景に立つ2		無い物が見えてくる、見えない空間を感じる中で、会話する。	
3	芸用生理学	行動のサイクル1		意識(発想)→想像(思考)→行動(エネルギー)→反応(影響)→誰かの意識	
4	芸用生理学	行動のサイクル2		台本理解にも繋がっていく、役の生理について考える。	
5	芸用生理学	外郭的反応・内面的衝動1		型から学ぶ⇔内面から捉える	
6	芸用生理学	外郭的反応・内面的衝動2		感情の流れを抑圧的に導く例を探る。 心に響く例をだし、感情を探る。	
7	芸用生理学	発見と想像1 記憶からの発想		創造力を記憶から生み出すと考えたとき、記憶の多くは、自身の感動の積み重ねとして捉えてみる。	
8	芸用生理学	発見と想像2 選択する過程		発想力を生み出す感動。いくつもの記憶から、発見をきっかけに紡がれるアイデア。無数の記憶から選ぶ作業について	
9	芸用生理学	まとめ		行動のサイクルを再認識	
10	台本理解	行間を読む1		台詞と台詞の相互理解を意識する。	
11	台本理解	行間を読む2		見えない情景を感じ取り、台詞の繋がりを考える。	
12	台本理解	キャラクターを考える1		役の関係性を理解する	
13	台本理解	キャラクターを考える2		役について、その役の歴史を自分の経験と置き換えてみる	
14	台本理解	作者のねらいを考える1		本を書く側の想いについて	
15	台本理解	作者のねらいを考える2		本を読む側に起こるであろう反応・影響を考える	
16	台本理解	作者のねらいを考える3		台本の中の登場人物たちの台詞は、作者の言葉でもある	
17	台本理解	まとめ		作者の想いを感じながら台本を理解する	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				演技を思考する。客観視しながら状況や過程を鑑みての感情と、物語の登場人物となって内面から湧き上がる感情。そのどちらも、より効果的な手法として捉え、丁寧に行ってほしい。感覚的だけでなく、時には、抑圧的に起こった反応なのか、性格による衝動なのか、またその両方が混ざり合っている場合も考え、演技表現の幅を持つことへと繋げてほしい。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年			

科目名	異文化研究				
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	4	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	38時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19×2コマ 2. 提携大学：台南芸術大学での授業受講 3. (台湾) 海外の文化・流行・生活を体験することで異文化を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	海外の映像・アニメなどの知識習得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	資料など配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	異文化研修について		異文化研修についてのイントロダクション		
2	台湾講座 1		台湾基礎知識 (民族・言語・国土面積・通貨・気候等)		
3	台湾講座 2		台湾基礎知識 (芸能・文化・慣習・教育等)		
4	台湾講座 3		現地旅行会社のガイドとスカイプで中国語講座		
5	異文化芸術鑑賞		台湾制作、または台湾を題材、テーマにした映像作品を鑑賞		
6	海外研修旅行準備		海外渡航における注意点・準備物について		
7	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる		
8	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる提出・現地課題の配布		
9	海外研修旅行準備		海外研修旅行説明会 (持ち物・服装・行程などの最終ガイドダンス)		
10	台湾：異文化研修				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年、海外研修担当4年				

科目名		卒業進級制作実習			
担当教員	安川嘉文	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	企画立案	どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)			
2	企画書作成	テーマ・コンセプト・ターゲット決め			
3	企画書作成	内容			
4	企画書作成	予算・スケジュール・組織図・その他			
5	台本作成	資料収集			
6	台本作成	基本的構成決定～ラフ台本完成			
7	台本作成	台本完成			
8	稽古期間	衣装・大道具・小道具作成			
9	稽古期間	衣装・大道具・小道具作成			
10	稽古期間	衣装・大道具・小道具作成			
11	稽古期間	音響・照明プランニング			
12	稽古期間	音響・照明プランニング			
13	稽古期間	音響・照明プランニング			
14	稽古期間	音響・照明プランニング			
15	稽古期間	最終チェック			
16	リハーサル	会場入り(通し)			
17	リハーサル	会場入り(通し)			
18	リハーサル	会場入り(通し)			
19	ゲネラルプローブ				
20	本番	評価			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		進級評価の対象となります。			
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名		卒業進級制作実習			
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	120時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての演劇舞台の準備・制作・公演				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)		
2	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
3	企画書作成		内容		
4	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
5	台本作成		資料収集		
6	台本作成		基本的構成決定～ラフ台本完成		
7	台本作成		台本完成		
8	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
9	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
10	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
11	稽古期間		音響・照明プランニング		
12	稽古期間		音響・照明プランニング		
13	稽古期間		音響・照明プランニング		
14	稽古期間		音響・照明プランニング		
15	稽古期間		最終チェック		
16	リハーサル		会場入り(通し)		
17	リハーサル		会場入り(通し)		
18	リハーサル		会場入り(通し)		
19	ゲネラルプロローベ				
20	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			卒業評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名	朗読基礎Ⅱ				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 「語る」ための基礎力育成。 2. 「表現する」ためのイメージ力育成。 3. 発表により、伝える力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 読解力の強化。2. 登場人物の深層心理をくみ取りつつ表現することができる。 3. よりリアリティーのある語り表現の育成。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師テキスト				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	日本文学1		作家太宰治の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
2	日本文学2		作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
3	日本文学3		作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
4	日本文学4		作家太宰治の短編小説の朗読練習。		
5	日本文学5		作家太宰治の短編小説の朗読。 語り癖の確認と修正。		
6	日本文学6		グループ発表。		
7	現代小説1		現代の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
8	現代小説2		現代の短編小説の朗読練習。		
9	現代小説3		現代の短編小説の朗読練習。		
10	現代小説4		現代の短編小説の朗読練習。		
11	現代小説5		現代の短編小説の朗読練習。		
12	現代小説6		グループ発表。		
13	海外小説1		海外の短編小説の朗読練習。 初見読みチェック。		
14	海外小説2		海外の短編小説の朗読練習。		
15	海外小説3		海外の短編小説の朗読練習。		
16	海外小説4		海外の短編小説の朗読練習。		
17	海外小説5		グループ発表。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、語る力、表現力を磨く。 聴く人に、声で物語の世界を見せられるようにするには、自身も イメージを高めて表現しなければならない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名		舞台美術			
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	
対象学科		対象学年		開講時期	
必修・選択		単位数		単位時間数	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 舞台美術・衣裳などの仕事について理解する 2. 舞台美術での準備から仕込み作業の流れを理解する 3. 舞台作業を通じて、様々な状況に対応していく			
学習目標 (到達目標)		舞台美術に関する仕事の種類と技術を学びながら、現場対応力を身に付け、作業工程を組み立てることが出来る。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		工具類 参考資料(過去使用図面等) コピーにて必要時配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	舞台演劇の美術に関する基礎知識			作業全般に起こる危険・安全について 1年次おさらい	
2	舞台演劇の美術に関する基礎知識			美術関係の仕事 1年次のおさらい	
3	舞台演劇の美術 道具類			美術用道具について 1年次のおさらい	
4	舞台演劇の美術 メイク			基礎メイクについて	
5	舞台演劇の美術 ヘアメイク			ヘアメイクに関する基礎授業	
6	舞台演劇の美術 衣裳			衣裳製作について	
7	舞台演劇の美術 仕込み図1			仕込み図について1	
8	舞台演劇の美術 仕込み図2			仕込み図について2	
9	舞台演劇の美術 おさらい			おさらい	
10	舞台を創る ステージのイメージ			台本を読み、舞台イメージを考える	
11	舞台を創る ステージ図面			絵・図を描いてみる	
12	舞台を創る 登場人物のイメージ			台本を読み、登場人物の衣裳を考える	
13	舞台を創る 衣裳図・小道具の図			小道具・衣裳のイメージ図を描く	
14	舞台を創る 舞台監督1			幕～場～場の流れを考える	
15	舞台を創る 舞台監督2			転換時の流れから、道具類の状況などを把握する	
16	舞台を創る 舞台監督3			美術と進行の動きを合わせる	
17	舞台を創る まとめ			演出の考えをまとめる	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				基本は、物を作ったり、建てたりという現場での基礎勉強を、知識面とシミュレーションでの勉強が主となります。が、定期的な実際の現場に携わる可能性が高く、故に安全面や経験不足でのトラブルが考えられます。シミュレーションする中で、考えられる限りのアクシデントに対応する意識を心がけるようにしてください。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年			

科目名		ステージマネジメント			
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	
対象学科		対象学年		開講時期	
必修・選択		単位数		単位時間数	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 舞台演劇・ステージイベントの仕組みを理解する 2. 本番に必要な準備と流れを理解する 3. イベント進行時の安全について深く理解する			
学習目標 (到達目標)		本番時の観客とステージ側の進行の責任者であるとともに、安全面の責任者であることも理解する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		実際に使われた公演資料のコピーを配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	舞台イベントの種類			演劇・音楽劇・コンサートなど	
2	舞台イベントでの進行係			必要な知識について	
3	舞台監督の存在			ステージマネージャーについて	
4	演目によるルール1			現場や内容によってルールが違う場合がある	
5	演目によるルール2			舞台上の道具の扱いや楽器などについて	
6	演目によるルール3			スタッフ間による情報の共有	
7	イベント進行1			演目のスムーズな進行	
8	イベント進行2			劇場内通路確保について	
9	進行について まとめ			まとめ	
10	ステージマネジメントについて			安全のためのスムーズな進行係	
11	演劇の舞台進行について1			出演者の楽屋と舞台袖	
12	演劇の舞台進行について2			客席の配置と非常時の誘導	
13	演劇の舞台進行について3			演技スペースの確保	
14	演劇の舞台進行について4			ステージ進行表1	
15	演劇の舞台進行について5			ステージ進行表2	
16	演劇の舞台進行について6			ステージ進行表3	
17	演劇の舞台進行について7			まとめ	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				出来ることとそうでないことに対する判断力が大切な仕事です。 演出の言いなりにならず、役者・観客・スタッフの安全な環境を どう作り上げるかが、スムーズな進行に繋がるという考えを大切に してください。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年			

科目名	演劇ワークショップ				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 感情の解放・意識の分散・リラックス 2. シアターゲームを通じてセリフの言い方・演技を記号化して体験する 3. 演劇におけるコミュニケーション力を身につける				
学習目標 (到達目標)	身体感覚と感情コントロールを自在にすることができ、他者と関わりながら共感、共通言語を有し、演劇的コミュニケーションがはかれるようになる。舞台表現に好奇心を持ち、積極的に関わる意志を自覚することができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	その場に応じて教材・テキストを用意。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演劇ワークショップ基礎 1		イントロダクション・目的とねらいを説明		
2	演劇ワークショップ基礎 2		二人組バランス・たおれかけレッスン		
3	演劇ワークショップ基礎 3		クラッピング。ジップザップポップ		
4	演劇ワークショップ基礎 4		リズムゲーム・音バス		
5	演劇ワークショップ基礎 5		タオルバス		
6	演劇ワークショップ基礎 6		ストップモーション・スローモーション		
7	演劇ワークショップ基礎 7		ジブリッシュ①		
8	演劇ワークショップ基礎 8		ジブリッシュ②		
9	演劇ワークショップ基礎 9		テスト		
10	演劇ワークショップ応用 1		緊張とリラックス		
11	演劇ワークショップ応用 2		共鳴とチークアップと調音		
12	演劇ワークショップ応用 3		照準と射程		
13	演劇ワークショップ応用 4		スピーチ・パワースピーチ		
14	演劇ワークショップ応用 5		2人組朗読・ユニゾン		
15	演劇ワークショップ応用 6		五感・目隠しレッスン		
16	演劇ワークショップ応用 7		エチュードレッスン		
17	演劇ワークショップ応用 8		テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 人の観ている前で、自分の身体を使って表現するのが「演技」です。日常的な身体と演技する時の身体の共通項と違いを様々なやり方で認識し、「演じること」とは何かを考えます。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名	人狼メソッド				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 人狼ゲームを用いた人狼メソッドを習得 2. インプロの理解とインプロスキルの強化 3. グループワークで創作発表できる				
学習目標 (到達目標)	人狼TLPT監修のもと、人狼ゲームを用いた人狼メソッドで演技力の向上を目指す。ゲーム性を取り入れることで自身の演技スイッチを自覚し、インプロで演技交換ができるようになる。観客を意識したグループ発表ができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	人狼TLPT教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インプロワークス1		イントロダクション・インプロとは何か・なぜインプロが必要か		
2	インプロワークス2		インプロの基礎・イエスアンドの説明		
3	人前で喋る1		ディベート(1VS2)		
4	人前で喋る2		ディベート(1VS観客)		
5	インプロゲーム1		イエスアンド・イエスアンドイェー		
6	インプロゲーム2		水とミルク		
7	インプロゲーム3		ワードウルフ(グループワーク)		
8	インプロゲーム4		ワードウルフ(グループワーク)		
9	インプロゲーム5		ワードウルフ(発表)		
10	人狼メソッド1		人狼メソッドの説明		
11	人狼メソッド2		関係性なしでチーム分けをして人狼ゲーム		
12	人狼メソッド3		人狼ゲーム(全員喋る、割り込む)		
13	人狼メソッド4		人狼ゲーム(簡易関係性をつくる)		
14	人狼メソッド5		人狼ゲーム(関係性をアドリブでつくる)		
15	人狼メソッド6		人狼ゲーム(死に対するリアクション、遺言、感想タイム)		
16	人狼メソッド7		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(グループワーク)		
17	人狼メソッド8		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(発表)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名	人狼メソッド				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 人狼ゲームを用いた人狼メソッドを習得 2. インプロの理解とインプロスキルの強化 3. グループワークで創作発表できる				
学習目標 (到達目標)	人狼TLPT監修のもと、人狼ゲームを用いた人狼メソッドで演技力の向上を目指す。ゲーム性を取り入れることで自身の演技スイッチを自覚し、インプロで演技交換ができるようになる。観客を意識したグループ発表ができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	人狼TLPT教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インプロワークス1		イントロダクション・インプロとは何か・なぜインプロが必要か		
2	インプロワークス2		インプロの基礎・イエスアンドの説明		
3	人前で喋る1		ディベート(1VS2)		
4	人前で喋る2		ディベート(1VS観客)		
5	インプロゲーム1		イエスアンド・イエスアンドイェー		
6	インプロゲーム2		水とミルク		
7	インプロゲーム3		ワードウルフ(グループワーク)		
8	インプロゲーム4		ワードウルフ(グループワーク)		
9	インプロゲーム5		ワードウルフ(発表)		
10	人狼メソッド1		人狼メソッドの説明		
11	人狼メソッド2		関係性なしでチーム分けをして人狼ゲーム		
12	人狼メソッド3		人狼ゲーム(全員喋る、割り込む)		
13	人狼メソッド4		人狼ゲーム(簡易関係性をつくる)		
14	人狼メソッド5		人狼ゲーム(関係性をアドリブでつくる)		
15	人狼メソッド6		人狼ゲーム(死に対するリアクション、遺言、感想タイム)		
16	人狼メソッド7		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(グループワーク)		
17	人狼メソッド8		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(発表)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名	舞台ステージ制作				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 劇場の使い方を理解し、舞台イベントを企画する。 2. スタッフの役割・作業を理解する。 3. ステージ演出を企画し、公演として立ち上げることができる。				
学習目標 (到達目標)	劇場の使い方を理解し、自ら企画したステージイベントを演出し、発表まで立ち上げることができるようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	都度、必要な資料を配布。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	劇場の使い方		劇場の役割・シアターの設備説明・機材説明		
2	スタッフの役割		スタッフの種類と役割・作業内容の説明		
3	ステージ企画1		シアターで行う舞台ステージの企画を自分で考えてみる。		
4	ステージ企画2		舞台ステージの企画をビジュアル化する。		
5	ステージ企画3		自分の企画を他者にプレゼンする。		
6	グループ企画1		グループでオリジナルの舞台ステージを企画する。		
7	グループ企画2		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
8	グループ企画3		企画発表に向けてのリハーサルを行う。		
9	グループ企画発表		企画発表		
10	グループ企画1		グループでオリジナルの舞台ステージを企画する。		
11	グループ企画2		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
12	グループ企画3		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
13	グループ企画4		グループで企画制作の役割分担をして制作進行する。		
14	グループ企画5		企画発表に向けてのリハーサルを行う。		
15	グループ企画6		企画発表に向けてのリハーサルを行う。		
16	グループ企画発表1		企画発表		
17	グループ企画発表2		企画発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

科目名		声優基礎トレーニング			
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	単位数	—	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数
必修・選択		必修	単位数	—	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 日々行えるトレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。			
学習目標 (到達目標)		1. 声優にとって必要な基礎的体力を身につける。 2. 役者として必要な発声の基礎を身につける。 3. 滑舌の向上 4. 強弱緩急、高低、間を意識した表現ができる。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成資料			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ストレッチ 発声			実習 全身リラックスのための簡単なストレッチ 初心者のための発声練習。	
2	ストレッチ 胸式呼吸と腹式呼吸			実習 全身リラックスのための簡単なストレッチ 胸式呼吸と腹式呼吸について説明	
3	ストレッチ 発声			実習 全身リラックスのためのストレッチ 呼吸法を意識しての発声練習	
4	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声練習(長音、高低)	
5	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(五十音の歌)	
6	トレーニング 発声・滑舌 アクセント			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(五十音の歌) アクセント練習	
7	トレーニング 発声・滑舌 アクセント			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(五十音の歌) アクセント練習	
8	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(外郎売)	
9	発声・滑舌 テスト			発声・滑舌練習(外郎売) 実技テスト	
10	トレーニング 発声・滑舌			実習 トレーニング 発声・滑舌練習(外郎売)	
11	発声・滑舌 イントネーション			実習 発声滑舌練習 イントネーション(抑揚)による感情の演じ分け	
12	発声・滑舌 イントネーション			実習 発声滑舌練習 イントネーション(抑揚)による感情の演じ分け	
13	発声・滑舌 プロミネンス			実習 発声滑舌練習 プロミネンス(強調)による表現の演じ分け	
14	発声・滑舌 プロミネンス			実習 発声滑舌練習 プロミネンス(強調)による表現の演じ分け	
15	発声・滑舌 ポーズ			実習 発声滑舌練習 ポーズ(間)による表現の演じ分け	
16	発声・滑舌 ポーズ			実習 発声滑舌練習 ポーズ(間)による表現の演じ分け	
17	テスト			実技テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。				声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌などの基礎力を 磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。	
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む			

科目名	声優トレーニング				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 日々行えるトレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 役者として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やプレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
17	実技テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名		HIP HOP II			
担当教員		MIE (中野 美恵)	実務授業の有無		○
対象学科		声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年		2
必修・選択		必修	単位数		1
			単位時間数		34時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい姿勢で舞台に映える動きを身につける。 2. アイソレーションが正しくできるようにする。 3. リズムキープに表現力がプラスされたダンスができるようにする。			
学習目標 (到達目標)		1. 舞台上で使えるアイソレーションをマスターし、ボディコントロールできるようになる。2. 振り付けられた内容の中で、個々の表現を取り入れながら踊れるようにする。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		なし			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		1年次の復習。		
2	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
3	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
4	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
5	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
6	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
8	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
9	課題発表		グループ発表。		
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		前期の復習。		
11	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
12	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
13	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
14	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
15	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
16	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
17	課題発表		グループ発表。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			進行状況に合わせて振り付けも変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴		HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振り付けも行う。			

科目名	ピラティス				
担当教員	MIE (中野 美恵)		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 全身の細かな筋肉と精神を自分自身でコントロールできるようになる。 2. 体幹とインナーマッスルの強化 3. 運動パフォーマンスの向上				
学習目標 (到達目標)	エクササイズの実践により、理想的な姿勢と動作を学ぶ。ピラティス独特の呼吸法を取り入れながら、精神のコントロールもできるようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	呼吸法		ピラティス効果を効率よく高める呼吸法を学ぶ。		
2	解剖学		骨や筋肉の名称を学ぶ。		
3	エクササイズ①		シングルレックストレッチ・ダブルレックストレッチ・フリスクロス		
4	エクササイズ②		シングルレックトレートストレッチ・ダブルレックトレートストレッチ・スワン		
5	エクササイズ③		ローリングライクアボール・ロールアップ・ソー・スパインストレッチフォワード		
6	エクササイズ④		シングルレックキック・ダブルレックキック・スイミング・シングルレッグキック		
7	エクササイズ⑤		バナナ・プッシュアップ・サイドキックフロント・サイドキックレグリフト		
8	エクササイズ⑥		サイドキックサークル・シール・バイク		
9	テスト				
10	呼吸法・解剖学・エクササイズ		前期の復習をしつつ体をつくりおこす。		
11	ストレッチボールエクササイズ①		ストレッチボールを使い、体幹をさらに強化。		
12	ストレッチボールエクササイズ②		ストレッチボールを使い、体幹をさらに強化。		
13	エクササイズ①		40分のピラティスグループレッスン		
14	エクササイズ②		40分のピラティスグループレッスン		
15	エクササイズ③		40分のピラティスグループレッスン		
16	エクササイズ④		40分のピラティスグループレッスン		
17	テスト				
	評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。ピラティス指導員資格有				

科目名	クラシックバレエ				
担当教員	内堀 照子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. バレエの基礎を学ぶことにより、表現者としての美しい立ち方、動きを磨く。 2. ミュージカルにも対応できる人材を育成する。				
学習目標 (到達目標)	1. 基本姿勢を身につける。 2. 体を自由に動かし演技ができる。 3. 音楽に合わせて踊ることができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	バレエシューズ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基本姿勢		立ち方確認。姿勢矯正		
2	スキップ シャッセ		姿勢を保ちながら、スキップ、シャッセ		
3	ステップ		シャッセ、パ・ド・ブレ		
4	バーレッスン		ブリエ、タンジュ、ソテー、ジュッテ、パッセ		
5	バーレッスン		前回までの復習。ロンデジャンプ		
6	バーレッスン		前回の復習。フォンジュ		
7	バーレッスン		前回の復習。バットマン、グランドバットマン		
8	センターレッスン		前回の復習。バーなしでのタンジュ		
9	センターレッスン		前回の復習。ピルエット		
10	センターレッスン		前回の復習。ワルツ		
11	センターレッスン		前回の復習。ジャンプ		
12	センターレッスン		前回の復習。アレグロジャンプ		
13	センターレッスン		前回の復習。グランジャンプ		
14	センターレッスン		組み合わせ練習 1		
15	センターレッスン		組み合わせ練習 2		
16	センターレッスン		組み合わせ練習 3。課題練習		
17	課題発表		課題発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			バレエの基礎を、表現者としての姿勢や演じる際の身体の動きに活かすことを目的としている。積み重ねによって修得できるものなので、自主練習をし、日常生活でも身体の動きを意識してほしい。		
実務経験教員の経歴	バレエ教室代表、ミュージカル振付師として、30年以上の経験を持つ				

科目名		メディアマスコミ基礎学			
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	
対象学科		声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年		1
必修・選択		必修	単位数		1
授業概要、目的、授業の進め方		1. メディア・マスコミ業界の仕組みや内容を理解する。 2. イベント・ラジオ・テレビ業界で働くための基礎知識習得を行う。 3. 各業界の仕組み、企画から発信までの流れ、簡単な歴史などを学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		1. イベントの基本的事柄を説明できる。2. ラジオ・テレビの基本的な制作工程が説明できる。3. マスコミで仕事をする上で基本的な考え方や関係性を理解している。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料ほか			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	マスコミの基本的存在意義		メディア=仲介の役割 人と出来事を結ぶ存在		
2	新聞(報道)メディアの基礎 I		5W1Hで報道は伝えられる。ネットの速報性に対して新聞は記録性にある。人権尊重の意識など		
3	新聞(報道)メディアの基礎 II		価値ある報道とは? 新奇性・人間性・普通性・社会性・影響性・記録性・国際性・地域性など		
4	報道記事の作成		身近で起こった出来事を5W1Hに当てはめて記事を作成し、発表する。		
5	イベントの基礎 I		セールスプロモーションとパブリックリレーションズの違い。イベント企画から実施、効果測定までの流れ。		
6	イベントの基礎 II		宣伝と動員の違い。開催時期や会場決定について。アンケート集計によるマーケティングについて。		
7	イベントMC・司会について		進行と仕切りを任されているMCの本当の役割について。実習(台本をもとにMCを行う)		
8	ラジオCMの基礎		20秒に何をどう伝えるか。音だけで消費行動を起こす。実習(CMを作成)		
9	テレビCMの基礎		15秒に何をどう伝えるか。情報CMとイメージCMの違い。CM企画から実施までの流れ。		
10	ラジオ番組制作の基礎		CUEシートの作成、選曲、BGM、トーク内容などの各パートの説明		
11	ラジオ番組制作の実習		自身で作成したCUEシートをもとに模擬ラジオ番組の制作を実施する。		
12	ラジオパーソナリティーについて		音楽に関する知識、ラジオトークの特徴、楽曲紹介の方法など。		
13	テレビ番組制作の基礎 I		企画、台本作成、取材、放送までの流れ		
14	テレビ番組制作の基礎 II		撮影、編集、MAの基本的知識		
15	アナウンサーについて		リードニュース、実況、番組進行の違い。アナウンサーの役割と技能など。		
16	その他のメディアについて		特にアプリ、インスタグラム、Youtubeなど新しいネットメディアに特化する。		
17	メディア(マスコミ)に関する将来展望		授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			インターンシップなどで現場に出た際、非常に重要な知識となります。よりビジネス意識を持って受講すること。		
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー			

科目名	ビジネス著作権BASIC				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	著作権とは何か		イントロダクション・著作権の性質、著作権法の目的		
2	著作権で保護されるもの		著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
3	著作権は誰が持つ		著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
4	著作権の内容 1		著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持 権・一身専属性 教科書P31～P41		
5	著作権の内容 2		財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信 権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59		
6	著作権は誰が持ついつまで保護される		著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
7	他人の著作物は勝手に使えない		著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
8	勝手に使える場合がある		権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無 償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101		
9	著作物を伝達する者を保護する制度		著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放 送事業者）・隣接権保護期間 教科書P117～P129		
10	勝手に使うとどうなるか		著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
11	著作権に関する関連制度		知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
12	産業財産権とは		特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは		問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外		問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺		問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
16	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）		答え合わせおよび解説		
17	ビジネス著作権BASIC検定試験		直前に模擬テストおよび解説あり。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格 を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識と なるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名		実践行動学			
担当教員	朝倉隆司	実務授業の有無	×		
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	18時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1～Part 3を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 (到達目標)	将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Part 1 マジックドア1		夢と目標 P1～P7		
2	Part 1 マジックドア2		誤った思い込みと言いつ P8～P13		
3	Part 1 マジックドア3		行動のよりどころと心構え P14～P22		
4	Part 1 マジックドア4		まず第1歩を P23～P32		
5	Part 1 マジックドア5		目標設定しよう P33～P38		
6	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P39～P42		
7	Part 2 マジックドア1		プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P1～P4		
8	Part 2 マジックドア2		考え方を変えれば行動が変わる P5～P11		
9	Part 2 マジックドア3		あなたの問題は、あなたが解決できる P12～P19		
10	Part 2 マジックドア4		あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P20～P27		
11	Part 2 マジックドア5		目標が才能・可能性を開花させる P28～P32		
12	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P34～P36		
13	Part 3 マジックドア1		入学から今日までの成長を実感しよう P1～P4		
14	Part 3 マジックドア2		働く自分をイメージしてみよう P5～P10		
15	Part 3 マジックドア3		自分が最大限に生きる働き方とは P11～P15		
16	Part 3 マジックドア4		将来を描いてみよう P16～P20		
17	Part 3 マジックドア5		夢実現への第一歩を踏み出そう P21～P24		
18	Step Up Sheet		夢実現整理・行動計画の振り返り P25～P28		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかあり ません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進め て下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、実践行動学ファシリテーター資格有				

科目名		演技・映像業界研究			
担当教員	安川嘉文（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標（到達目標）	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
2	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
3	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
4	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
5	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。		
実務経験教員の経歴	著名な業界関係者（監督・ディレクター・プロデューサー・演出家・役者など）				

科目名		演技・映像業界研究			
担当教員		安川嘉文（コーディネーター）		実務授業の有無	
対象学科		<small>声優アクターズ科</small> <small>俳優・タレントコース</small>		○	
必修・選択		必修		開講時期 前期	
		単位数		2	
		単位時間数		45時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 7日×6コマ+3コマ 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む			
学習目標 (到達目標)		一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
2	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
3	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
4	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
5	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
6	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
7	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
8	特別講師によるワークショップ			俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。				講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お 知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。	
実務経験教員の経歴		著名な業界関係者（監督・ディレクター・プロデューサー・演出家・役者など）			

科目名	映像・声優・俳優専攻ゼミ				
担当教員	安川嘉文（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	29時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 （到達目標）	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	特別講師によるワークショップ	俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導			
2	特別講師によるワークショップ	俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導			
3	特別講師によるワークショップ	俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導			
4	特別講師によるワークショップ	俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導			
5	特別講師によるワークショップ	俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート提出80%、授業態度および意欲20%		講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	著名な業界関係者（監督・ディレクター・プロデューサー・演出家・役者など）				

②

科目名		映像・声優・俳優専攻ゼミ			
担当教員	安川嘉文（コーディネーター）	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	29時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 5日×6コマ（初回授業のみ7コマ） 2. 特別講師を招いての授業およびワークショップ 3. 現場で活躍する著名な方の授業を受けることでのモチベーション向上および最新知識の習得 4. 新潟だけでなく東京などでの研修も含む				
学習目標 （到達目標）	一流のプロフェッショナルから学ぶことで職業に対する意欲および意識の向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特別講師プロフィールおよびテキストプリントの配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
2	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
3	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
4	特別講師によるワークショップ		俳優・演出家・プロデューサーによる演技指導		
5	俳優の極意		劇団新感線所属の役者によるワークショップ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出80%、授業態度および意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			講師はその都度、状況によって変わります。来校が決まり次第お知らせします。また、授業終わりにレポートの提出があります。		
実務経験教員の経歴	著名な業界関係者（監督・ディレクター・プロデューサー・演出家・役者など）				

科目名		総合イベント演習			
担当教員		安川嘉文		実務授業の有無	○
対象学科		声優アクトース科 俳優・タレントコース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	—	単位時間数 36時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。			
学習目標 (到達目標)		エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		作品に対する詳細な資料など(プリント)			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台鑑賞		60年代の演劇映像×3本(レポート提出)		
2	舞台鑑賞		70年代の演劇映像×3本(レポート提出)		
3	舞台鑑賞		80年代以降の演劇映像×3本(レポート提出)		
4	演劇鑑賞		新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など		
5	演劇鑑賞		新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など		
6	演劇鑑賞		新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート評価60%、作品鑑賞数30%、学習意欲10%			授業外で作品鑑賞した場合、レポート提出で加点評価します。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		総合イベント演習			
担当教員		安川嘉文		実務授業の有無	○
対象学科		声優アクターズ科 俳優・タレントコース	対象学年	2	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数 36時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 映像・舞台・コンサート観賞を通じて芸術への関心を高める。 2. 映画祭やイベントに参加することでの人脈作りを図る。			
学習目標 (到達目標)		エンターテインメント業界への関心を高めることで更なる造詣を深める。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		作品に対する詳細な資料など(プリント)			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台鑑賞		60年代の演劇映像×3本(レポート提出)		
2	舞台鑑賞		70年代の演劇映像×3本(レポート提出)		
3	舞台鑑賞		80年代以降の演劇映像×3本(レポート提出)		
4	演劇鑑賞		新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など		
5	演劇鑑賞		新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など		
6	演劇鑑賞		新潟で開催される演劇鑑賞および関係者の座談会など		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート評価60%、作品鑑賞数30%、学習意欲10%		授業外で作品鑑賞した場合、レポート提出で加点評価します。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年			